



横浜市の山下公園そばの商業ビルの一角で
日々ネオン管と向き合う、『スマイルネオン』
代表・高橋秀信さん。一見するとコワモテだが、
話しかけると柔らかく、気さくな人柄だ。ネオン
管職人として30年近くのキャリアを重ねる
高橋さんだけに、手がける作品も幅広い。

特集 ジジジジ ピカン、ネオンの旅 一本一本に魂を吹き込むネオン管職人

当たり前のように私たちの暮らしになじむネオンサイン。
その灯りは一本一本、職人が手作りするからか、どこか優しく、温かい。

自然体でかっこいい それは、好きを仕事にしたから

パッと目を引くデザイン性、現代的なフォントなど、
独自の感性はネオン管職人に不可欠な要素。

おそらく誰しもが街中で何気なく目にしているネオンサイン。歓楽街のビルの屋上などで、夜になるとひとり目立つ看板はネオン管が用いられていることが多い。あまりの大きさに機械で作られていて思われるがちだが、実はすべて職人が一本一本手作りしていることをご存知だろうか。もちろん、アルファベットなど、店の看板や店内装飾用のネオンサインも職人の手製だ。

そんなネオン管に魅了され、職人の道を選んだのが横浜市中区で小さな工房を営む『スマイルネオン』の高橋秀信さん。今回はネオン管職人・高橋さんの想いを旅してみよう。

山下公園そばの小さなビルの3階の窓に灯るネオン管。高橋さんが代表を務める『スマイルネオン』の工房は、看板は掲げないので、このネオンが

中区で小さな工房を営む『スマイルネオン』の高橋秀信さん。

今日はネオン管職人・高橋さんの想いを旅してみよう。

山下公園そばの小さなビルの3階の窓に灯るネオン管。高橋さんが代表を務める『スマイルネオン』の工房は、看板は掲げないので、このネオンが

おそらく誰しもが街中で何気なく目にしているネオンサイン。歓楽街のビルの屋上などで、夜になるとひとり目立つ看板はネオン管が用いられていることが多い。あまりの大きさに機械で作られていて思われるがちだが、実はすべて職人が一本一本手作りしていることをご存知だろうか。もちろん、アルファベットなど、店の看板や店内装飾用のネオンサインも職人の手製だ。

そんなネオン管に魅了され、職人の道を選んだのが横浜市中区で小さな工房を営む『スマイルネオン』の高橋秀信さん。

今日はネオン管職人・高橋さんの想いを旅してみよう。

山下公園そばの小さなビルの3階の窓に灯るネオン管。高橋さんが代表を務める『スマイルネオン』の工房は、看板は掲げないので、このネオンが



『スマイルネオン』の工房内は高橋さんが好きなアメリカンカルチャーで埋め尽くされている。

たくさんのネオンが灯っているが、不思議とまぶしくないのは、ネオン管ならではだ。

おそらく誰しもが街中で何気なく目にしているネオンサイン。歓楽街のビルの屋上などで、夜になるとひとり目立つ看板はネオン管が用いられていることが多い。あまりの大きさに機械で作られていて思われるがちだが、実はすべて職人が一本一本手作りしていることをご存知だろうか。もちろん、アルファベットなど、店の看板や店内装飾用のネオンサインも職人の手製だ。

なぜネオン管職人を目指したのか、高橋さんが考えるネオ

ンの魅力とは……などなど、早速

話しを切り出そうとすると、

「まあ、まずは『服しよう』とい

い感じに力が抜けている。世間

話をするように、のんびりと『ネ

オン管って、真空にしたガラス

の管の中に、赤く発色するネオ

ンガスか、青く発色するアルゴ

ンガスを入れて、それに電気を

流すことで光るんだけど……実

際見てもらつた方が分かり

やすいかな」と、おもむろに作

業台へ向かう高橋さん。ここか

らがネオン管職人本来の姿。





人の手じゃないと作り上げられない

細いガラス管を熱し曲げる工程に始まり、ガスの封入まで、すべてに必要なのは高い職人技術。

使用するガラス管の太さは6~14mmの2mm刻みで5サイズ、ネオン管の色はおよそ40色を表現できるという。看板のサイズによって異なるが、一つのガラス管で2~4文字を一筆書きのように曲げていくのが、ネオンサインの一般的な作り方だ。正面から見たときに文字やロゴとなる部分以外は、黒い塗料を濃く塗り、光りが見えないようにしている。

状態にし、そこにネオンガスか、アルゴンガスを封入する工程で、しっかりと空気を抜き切らないと発色が良くないネオン管になってしまうという。

とにかく一つ一つの工程にとてもない集中力が必要で、一朝一夕ができるようなものじゃない。こんなに高い技術と、繊細かつ丁寧な仕事により、ネオンサインができるということを知ると、今後、見る目が変わってくるというのだ。むしろ、実際に製造工程を見せてもらうと、人の手以外、作りようがないとも感じられた。

作業台の上に、アルファベットが裏文字で書かれた紙を用意し、手に取ったガラス管をその文字に当てる高橋さん。この紙がネオンサインの設計図のようなもの。専用バーナーを点火し、太さ10ミリほどのガラス管を炙り始める。口にくわえたホースを、片方の端をふさいでガラス管の先端に取り付けて、息を吹き込みながら少しずつ曲げていく。「息を吹き込むことで、ガラス管の中から圧力をかけています。こうしないと、ガラス管が折れたり、へこんでしまうから」と説明してくれた高橋さんだが、曲げ作業中の高橋さんは声をかけることがほぼかられるほどの研ぎ澄まされた集中力。バーナーで炙られたガラス管は高橋さんの手によって、みるみるうちに形を変えていく。曲げ作業を何度も繰り返すと、ガラス管の強度が低くなってしまうため、ほぼ一発で、設計図の文字の形に合わせるよう心がけているそうだ。

曲げ工程が終わると、次に電極付け。そして第3の工程として排気へ。ガラス管の中を真空



[1] 『スマイルネオン』を象徴するネオンサイン

外側の縁は14mmと太めのガラス管を用いているので、より温かみを感じる印象。

「スマイルマークの外縁のようにキレイな円形にガラス管を曲げるのがとても難しい」と高橋さん。

[2] 着色されたガラス管を用いたネオンアート

6年前に丸の内で催された「ライティング・オブジェ」に出品。現在も定期的に行われているイベントだが、当時、ネオン管を使った作品を出品したのは高橋さんだけだったそう。

[3] 『Naughty By Nature(ノーティー・バイ・ネーチャー)』のロゴ

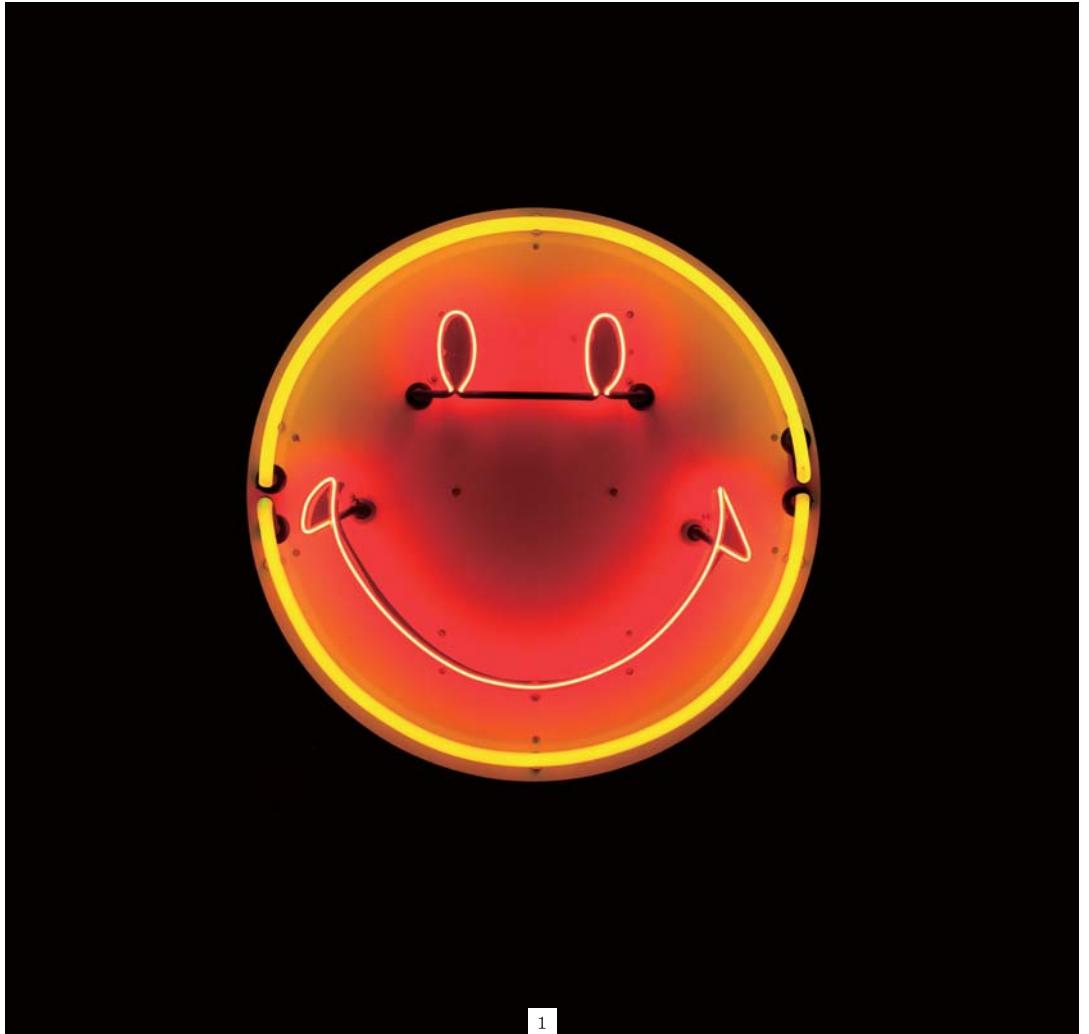
90年代を代表するヒップホップグループ『Naughty By Nature(ノーティー・バイ・ネーチャー)』のロゴをネオン管で製作。「個人的にプレゼントとして作ったものです」と高橋さん。

[4] スタートレック「SEVEN OF NINE」のネオンアート

アメリカのSFテレビドラマシリーズ『スタートレック: ヴォイジャー』に登場する『SEVEN OF NINE』をモチーフにしたアート作品。役を演じたジェリー・ライアンからInstagramを通じて「いいね！」が付いたそう。

[5] ベビーコーラの空き瓶を利用したネオンアート

空き瓶は普段扱っているガラス管とは、まったくの別物で、加工するのは非常に技術がいる。高橋さんは「商業用のネオンサインの製作はもちろん続けつつ、今後は自分なりのアート作品も作っていきたい」と話す。



変わらず光り続けるネオンサインを作る

技術次第でさまざまな表現ができ、さらに壊れない実用性に優れたサインに。

房立ち上げ以来、いくつものネオンサインを作り上げてきたのか。「いやー、数えてないから分からないね」と笑う高橋さんが、「手がけたショットの名前を聞くと、誰もが知る有名ブランドのサインもあり、思わず『え、あのネオンも!?』と聞き返してしまった。ショットオーナーはもちろん、企業、広告代理店とさまざまなクリエイントから発注があるのは、どんなデザインにも対応できる技術力があるからで、さらに「僕のネオンサインはしっかりと焼き入れして、ガラスの強度を上げるんです。だから頑丈。それに、変圧器1個でも発光するところを、寿命を長くするために2個付けたり。もちろん変圧器を1個多くつければ最初の費用は若干高くなるけど、長い目で見たらメンテナンス費用が抑えられ、コスト削減になる」と高橋さん。実際に工房入口に灯るネオンは18年間、一度も故障したことはないという。



ネオン管職人を育てた横浜という街

青春時代に惹かれたネオンを生涯の仕事に。その意思はどんな逆境も越える。

ね」と話す。

2000年に『スマイルネオン』を立ち上げ、仕事は順調だったが3・11以降は大変だったそう。「省エネが叫ばれ、街が暗くなっていた。もちろんネオンの仕事も激減しました。ただ、どうにか工房を存続させて、港で日雇いの仕事をなどをして食いつなぎましたね。仕事の依頼が震災前のようになるようになつたのに3・4年はかかりました」と高橋さん。

そんな高橋さんが一番心に残っている仕事とは、「すべての仕事に対し、常に手を抜かず取り組んでいますが、やっぱりホテルニューグランドのネオンサインは印象に残っています」と教えてくれた。山下公園のランドマークでもある横浜を代表する老舗ホテル。そんなホテルを正面から見てみると、クラシカルなフォントの巨大なネオン。もうすぐ日が暮れる夕方、パツと文字を縁取るようにならぬく光が、その理由は高橋さんのような職人が一本一本手作りしているからなのかもしない。

横浜生まれ、横浜育ちと生粋の「浜っこ」の高橋さん。そんな高橋さんにとつてネオンは馴染みのあるものだった。「10代の頃から遊び場だった本牧は、米軍ベースがあつたことから、アメリカンカルチャーが色濃く根付いていました。ネオンサインもいたるところに飾られていて。そんな青春時代を過ごしたから、ネオンリカッコいいっていうイメージが自然と生まれたんでしょう。看板屋などで働いていましたが、ネオン管職人になるために、25歳のときに蒲田のネオン屋に弟子入りさせてもらいました」と、当時を振り返る高橋さん。先に述べたように「朝一夕で身につく技術ではないため、修業には10年を要した」という。高橋さんは「職人気質の親方だったのでも、技術は見て盗めというスタンス。ただ、うまくできなくて、悩んでいるときでも、『そんなに根を詰めなくていい』と言つてくれる優しい親方でした。最初はなにもできないことばかりの毎日でしたが、やめたいと思つたことは一度もなかつた。ネオンが好きだったからでしよう

今回の旅のメモ。

今回の旅で訪れたのはこちらです。

profile

スマイルネオン

山下公園そばに小さな工房を構えるネオンサインの専門店。世界で一つだけのオリジナルネオンをオーダーできるとあって、ショップ、企業、CM、イベントなど、その仕事は多岐にわたる。ネオン管は100年以上前から存在する照明の一種だが、LEDや蛍光灯とは違った温かみのある光質、デザイン性が見直され、ここ数年、飲食店やアパレルショップなどからのオーダーが増えている。開業以来、掲げるコンセプトは「あなたと一緒に創り上げる」。まずは見積もりだけでもOKなので、気軽に問い合わせてみよう。

神奈川県横浜市中区新山下1-2-1 丸善ビル3F

TEL 045-621-8483

10:00~19:00 / 不定休

<http://www.smileneon.com>



access

スマイル
ネオン
まで

[公共交通機関で] ……羽田空港国内線ターミナルから京急空港線羽田空港線内線ターミナル駅へ。乗車し、京急蒲田駅で京急本線に乗り換え、横浜駅で下車。みなとみらい線に乗り換え、元町・中華街駅で下車。そこから徒歩5分。
[車で] ……羽田空港から首都高速湾岸線を利用。横浜方面に進み、新山下ランプで下りる。そのまま道なりに直進。または、羽田空港から首都高速神奈川1号横羽線を利用。

more information

スマイルネオンに関わるあれこれ

web



オフィシャルサイト

3年前にリニューアルしたオフィシャルサイトでは、高橋さんの過去に製作したネオンサイン、ネオンアートを写真で見ることができます。ネオン製作、見積もり、修理、メンテナンスについてメールでの問い合わせも受け付けている。リアルタイムの情報はFacebookをチェック。

<http://www.smileneon.com>

event



作品展“夕星”(ゆうづつ)

2018年3月21日(水)～25日(日)まで、横浜市西区にある『みなとみらいギャラリー』にて絵画・書道・組紐作品などの作家と共に共同で行う『作品展“夕星”(ゆうづつ)』が開催される。高橋さんは先のページで紹介した作品などを含むネオンアートを展出予定。

[期間] 3月21日(水)～3月25日(日)

[場所] 横浜市西区みなとみらい2-3-5

クイーンズスクエア横浜 クイーンモール2階

[時間] 12:00～18:00(最終日は16:00まで)

work



横浜市内で見られる
高橋さんのネオン

車のカスタムパーツや雑貨などを販売する、本牧の名物ショップ『MOONEYES Area-1』、クレイジーケンバンドグッズなどを販売する洋服店『Blue Beat Store』、山下公園前の老舗ホテル『ホテルニューグランド』など、横浜市内には高橋さんが手がけたネオンサインが点在。

<http://mooneyes-area1.com>